

平成30年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	盛岡	学校名	岩手町立 沼宮内 中学校	TEL	0195-62-2504
------	----	-----	--------------	-----	--------------

英語を使ってコミュニケーションを楽しむ生徒の育成

【ねらい】

○ 本校課題の「書くこと」への対策として、「話すこと」に重点を置いた授業づくり

諸調査で、「書くこと」の正答率が低く、無記入の生徒が多いのが課題である。「書く」ためにはまず「話す」ことができなければならないという共通意識を英語科で持ち、「話すこと」(アウトプット)を多く取り入れた授業を目指す。

○ 楽しんでコミュニケーションをしようとする環境づくり、授業づくり

「英語を使ってコミュニケーションを楽しむ」ために、全職員から協力を得て、環境作り、授業作りに取り組む。また、楽しんでコミュニケーションをする際に必要となる基礎学力をつけるため、授業改善を図る。

【具体的な取組】

1 各調査の結果分析から、本校生徒の課題を明確化

調査の結果から、特に場面や状況に合わせ、適切に英文を書くこと、また、与えられたテーマについてまとまりのある文章を書くことが苦手な生徒が多いと考えた。

「書くこと」について、生徒からの聞き取りでは、単語がわからない、語順がわからないから書けないという理由があがった。原因としてドリル形式の学習も不足しているが、それ以前に、授業で場面を設定し、話す活動を増やして語彙力や文法の力を高めることが必要だと考えた。

特に県との差があった問題

H29年度県学調(中2)の結果

- ・場面と文法を理解し正しい語順で書くことができる
(期間をたずねる疑問文) 44.7%

H29年度 中学1年生英語確認調査の結果

- ・場面に応じた英文を書くことができる
(相手を褒める場面) 40.2%

(県の正答率を100とした場合)

2 これからの社会に求められている学力の分析と、育てたい生徒像の明確化

平成31年度全国学力・学習状況調査の予備調査から、

- 即興で問答したり応答したりする力。
- まとまりのある文章を聞いたり読んだりして、正しく内容を理解する力。
- 与えられたテーマや状況について自分の考えを持ち、伝える力。

がこれから必要とされる力であると考えた。

本校では、まず、話す活動に慣れさせ、間違いを恐れず自分の考えを表現するため、楽しんで英語でコミュニケーションができる生徒の育成を目指すことにした。



3 コミュニケーションの力を高めることを意識した授業づくり (アウトプットを意識した活動)

(1) ペア・グループでの活動の工夫

授業での生徒の活動を、なるべくペアで行い、相手意識を持って取り組ませるようにした。会話等の練習はもちろんだが、

- 新出語句の読み方確認、意味確認をする。
- 初見の本文を1文ずつ交互に音読する。
- 本文の音読発表で、役割分担し発表する。

などを行った。わからないところを素直に聞くことができ教え合う姿が多く見られた。また、役割を与えられることで、意欲的に音読等に取り組む姿が見られるようになった。



初見の文を読み合う様子

(2) 話すこと (やり取り) の工夫

スモールトークを取り入れ、決められた時間内にペアでやり取りをした。終わったら、座席を1つずつずらすなどし、次々と相手を変えて話す練習を短時間で行った。教室を自由に歩き回る活動より、確実に多くの生徒と会話ができた。

- ウォームアップでは、「天気、日付、曜日」「放課後すること」などお題を与えて即興で行った。
- 新出文法を使った、ある程度パターンに当てはめた会話など、次々と相手が変わるため、様々な内容でパターン練習ができる。

◎スモールトークなど話すことが好きと答えた生徒の理由

できれば、理由を書いて下さい

(みんなと会話できて楽しいから) (友だちのことを知ることができるから)
 (見かいていえるようになるとおもしろい。)

(3) 話すこと (発表) の工夫

Basic Dialog 暗唱やペアで練習したことなどを、全体の前で発表させる場面を多く設定し、発表に慣れさせた。

- ピクチャーカードや具体物を指すなどの工夫、ジェスチャーやアイコンタクトを意識させた。
- 発表後は相互評価と自己評価を行い、発表で大切なことを意識して取り組ませるようにした。



Basic Dialog 暗唱の様子

※振り返りシートの裏に発表の評価をつけた。真似したい生徒の名を書かせ、次時に紹介するなどし、発表への意欲付けに役立てた。

	clear voice	eye contact	English	comment
6th	A	A	B	英語らしさを もっと頑張る もっと前を 向く。大津が良かった。
1th	A	B	A	ジェスチャー しやすかった。
BD	A	A	A	暗記できた 発表の時も 頑張る。

ish	comment
18.12.12	声も小さくなくて良かった。
18.12.12	ゆきみさんが
18.12.12	いいと思った。 thatをwhichに まちがって聞いていた でした。
18.12.12	どうもつさんか英語 らしく、相手のことを おいて良かった。

(4) 音読発表の工夫

これまで教科書本文の学習は、主に本文の読解と音読練習で終わっていたが、音読を表現の場と捉え、理解したことをふまえ、発表させる活動を取り入れた。

- 本文の音読練習をした後で、グループやペアで内容に合わせて、読み方を工夫し音読発表する。
- 話すこと（発表）と同様、ジェスチャーやアイコンタクトも意識させ、教科書から目を離せる部分は、なるべく離して音読する。

音読に対する生徒の意識(28人)	肯定的	否定的
音読が好きである。	23人	5人
音読する際に意識していること(複数回答)		
声量	16人	
発音	18人	
イントネーションや強弱	9人	
場面や内容を考えながら表現	14人	
その他	4人	

授業公開したクラスの意識調査

○ 音読が好きと答えた生徒の理由

- ・読めた達成感がよい。
- ・英語を話せていると思い、自信になる。



(5) 基礎を固める授業と家庭学習のサイクル化

授業では、話す、読む活動を多く取り入れる。リズムボックスを使用し、チャンツのように繰り返し基本文を唱えるなどしてインプットする。家庭学習では基本を確かめるシートや音読練習した本文を書く活動を中心に課題を与えた。

4 英語を使いたくなる環境作り

(1) 英語教室

授業で使用していない教室に、町教育委員会の協力を得て、閉校になった学校等から、町内で使用していない机・イスを運んでいただき、英語教室を設置した。

- 壁には、日常よく使う語（イラスト付きの教科書の資料・小学校の We can! などの資料）や、動詞の変化表などを貼り、説明の際などに使った。

「Small Talk のときや英作文を作るときなど、参考になる」「英語の表示があるので気分が変わる」などの生徒の感想があった。

- 発表ステージとして、教卓を教室の横に置き、教壇で発表する機会を増やした。
- リズムボックスやビデオなど各教室へ持ち運ぶ必要がないため器機の使用が容易になった。

(2) 生徒作品の掲示

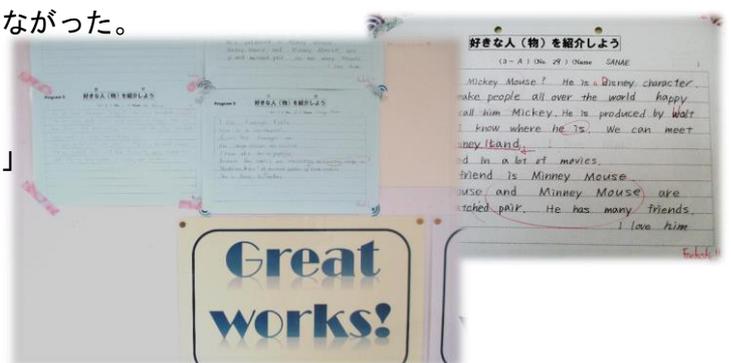
- 授業で作成した英作文の中から、ALT から高い評価を得た作品を掲示したところ、次時の作文の目標ともなり、「書くこと」への意欲へとつながった。

(3) 英語の歌

- 授業の導入等で、曲に合わせて歌った。
「リズムにのって単語や文章を覚えられる」
「海外の歌を知るきっかけになる」
「歌えるようになると嬉しい」
などの生徒の感想があった。

(4) ALT の効果的な活用

- ALT の出身国などの文化と日本のそれとの違いなど、ポスターにして掲示、またスモールトーク等のモデルとして、海外の文化など紹介してもらった。
- 授業では、打ち合わせの時間が少なくても、パターン化した活動の指示をお願いした。



5 小学校・高校の英語授業を参観

岩手町の「ファミリースクール構想」の一環として、小中相互の授業参観をしている。また、小学校英語学習の先進校や高校での授業を参観し、中学校でも取り入れるべき多くを学ぶことができた。



- 小学校の実際の授業を見ることで、中学校で生かせそうな具体的な取組について参考にすることができる。
- チャンツやゲームなど中学校でも取り入れ可能な楽しく学べる工夫がある。
- 1つ1つの活動に、しっかりした目標と評価があり、児童も意識して取り組んでいる。
- 小学校・高校での All English の授業の実際から学ぶ。

6 全教員が1度は参加し、英語でのコミュニケーションに

取り組む英語授業

- 生徒目線で授業に参加してもらい、感想をもらう。授業改善に役立つ。
- 他教科の先生方が英語を学ぶ様子に生徒が刺激を受けたり、楽しく学んだりする姿が生徒に良い影響を与えたりしている。



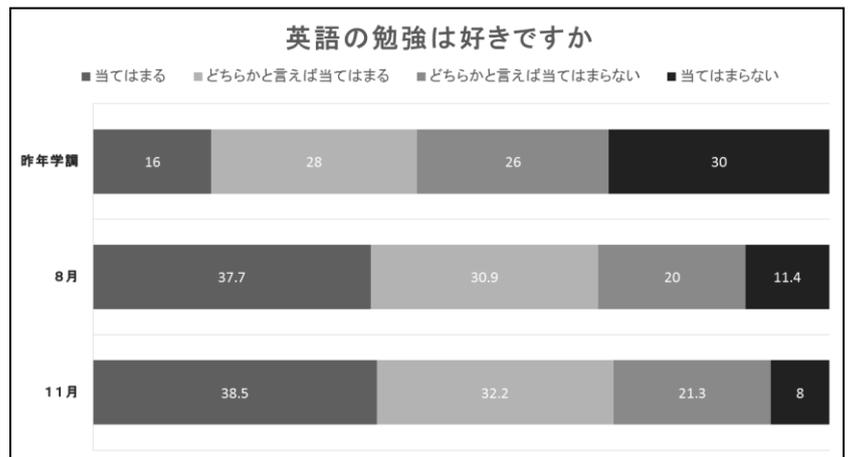
他教科の教員も生徒として授業に参加

【成果】

1 生徒へのアンケートの結果から

(1) 「英語の勉強が好き」と答える生徒の増加

昨年度の「県学調2年生英語生徒質問紙」と同じ内容のアンケートを全校生徒に対し、8月と11月に行った結果、グラフのように肯定的に答える生徒の数が増えた。また、11月には「英語の授業がよくわかる」の問いに肯定的に答えた生徒が76%を越え、昨年度の県平均を上回る割合となり、意欲的に授業に参加する生徒が増えたと言える。



(2) 英語を使いたくなる環境へ

英語教室についてのアンケートでは、英語教室に来ることで、「英語を学習しよう」と気持ちの切り替えができるという感想が多く見られた。

英語教室の設置、校内に英語表記での掲示をする等で、英語を身近に感じる生徒が増えたと思われる。例えば、廊下を走る生徒に対し、掲示してある”Don't run!”を使い、注意する姿が見られた。

2 授業改善について

話す活動を多く取り入れ、楽しんでコミュニケーションができる授業を目指し取り組んできた結果、英語科として感じられる生徒の変容として次のことが挙げられた。

- 以前よりも自信を持って英語を話すようになり、「書くこと」への抵抗が低くなってきている。
- 教え合い、学び合いが活発になった。また、他教科でのペア学習も活発になった。